

令和3年7月20日

## 第1学期終業式 式辞

生徒の皆さんおはようございます。

令和3年度1学期が今日で終わり、明日から夏季休業に入ります。昨年から続くコロナ禍は1学期の行事にもたくさん影響しましたね。甲山フェスティバルは何とか実施できましたが、保護者に来ていただけないなど、制約を余儀なくされましたね。この先もコロナの状況、社会の状況がどうなっているかで、学校行事もどのように実施できるか、あるいは実施できないか、予断を許しません。ニュースでは感染者が増えていること、ワクチンの効果かどうか断言はできませんが重症者は、感染者の増加の割には増えていないようであることなどが報じられていますね。ただ、40代50代という皆さんの保護者の世代の重症者が増えているとも言われていますね。この先どのようになるかはわかりませんが、2学期にはコロナの状況が少しでも良くなっていることを願うばかりです。そこで今日は、感染症にまつわる話とデマ、フェイク、誤った情報に関する話をします。

この人（肖像画を示しながら）は1749年にイギリスに生まれた医学者のエドワード・ジェンナーです。ジェンナーは天然痘のワクチンの開発者です。天然痘という病気は、痘瘡(とうそう)や疱瘡(ほうそう)とも呼ばれることがあります。人類が古くから苦しめられてきた感染症で今から3500年以上前からその病気の存在が確認されており、約3300年前のエジプトのラムセス5世のミイラには天然痘の痕跡があるそうです。天然痘にかかると全身に発疹が出ますが、ミイラにその発疹が出たあとがあるのです。史料にも天然痘で亡くなったとされているそうです。天然痘は西洋でも東洋でも何度も流行を繰り返していました。日本では、奈良時代に大流行したことをきっかけに奈良の大仏が建立されました。独眼竜政宗として有名な伊達政宗は天然痘に感染したことが原因で片目を失明したと言われています。天然痘でできた発疹のあとの膿(うみ)が目に入って失明したと言われています。アメリカ大陸ではコロンブスの上陸の後、ヨーロッパから持ち込まれた天然痘ウイルスによって天然痘が流行しアステカやインカ帝国の滅亡の原因の一つにもなりました。(インカ帝国はマチュピチュで有名ですね。)ヨーロッパでも何度も流行を繰り返し多くの命を奪ってきました。一方で天然痘に一度かかった人は以後二度と感染しないことは知られていました。そこで、天然痘にかかった時にできる全身の発疹の後のかさぶたを乾燥させて弱毒化して、人に植え付け軽度の天然痘に感染させて免疫を得る方法がアジアで行わ

れていました。その方法はヨーロッパにも伝わりましたが、軽度とはいえ天然痘であるので死者も発生し、安全とは言えないものでした。18世紀後半になると牛の病気である牛痘（ぎゅうとう）にかかった乳しぼりの女性は天然痘にかからないということが知られるようになりました。牛痘は人にも感染するのですが、人では少し熱が出たり、手に少し発疹が出たりする程度で命に関わることはありません。そのことを知ったことをきっかけにジェンナーは、牛痘の膿（うみ）を人に植え付けると天然痘にかからないことを見つけました。これが、ワクチン療法の始まりです。ちなみにワクチンという名称はラテン語の Vacca（ワッカ＝雌牛）という言葉が語源です。この方法は徐々にヨーロッパに広がっていきますが、はじめのうちは牛痘の膿を植え付けると、角が生えるとか、牛になるとか、様々なデマが生まれ、すぐには広がりませんでした。

この方法は、ヨーロッパから江戸時代末期の日本に伝わりました。緒方洪庵（おがたこうあん）という医師、蘭学者（蘭学とは、オランダを通じて日本に入ってきたヨーロッパの文化・技術・学問のこと）が大坂で牛痘を植え付ける種痘を始めました。それを関東から九州まで広げていきました。緒方洪庵もジェンナーと同じように、種痘を行うと牛になるというデマに困らせられました。ちなみに緒方洪庵は大阪大学の前身である適塾をつくり多くの有名な人の教育に携わりました。今の1万円札の肖像画の人、慶應義塾大学の創始者の福沢諭吉もその一人です。また、緒方洪庵の妻は緒方八重という名前の人で、蘭学医の娘で西宮名塩の人です。適塾の塾生の世話もよくしたので、塾生からは母のように慕われた人です。名塩にいけば緒方八重さんの銅像を見ることができます。この写真と同じ感じで座った銅像です。名塩の人や山口町の人を見たことがあるかもしれませんね。

ワクチンのおかげで、今では天然痘の病気は地球上から根絶しました。つまり、なくなりました。ワクチンの技術はその後様々な進歩し、様々な感染症に使われています。

今ではワクチンには大きく分けていくつかの種類があります。生ワクチン、不活化ワクチン、ウイルスベクターワクチン、mRNA ワクチン、DNA ワクチン等々があります。ワクチンの話はまた機会があればします。

さて、ジェンナーも緒方洪庵もワクチンを接種すると牛になるというデマに悩まされました。今もワクチン接種では様々なデマが流れています。特にSNSなどで流れているようです。間違った情報やデマは人々が不安を覚えているときにより流れやすくなるようです。たとえば、今のように疫病が流行しているときや大地震、台風などの災害の時などです。2016年の熊本地震ではライオンが動物園から逃げたというデ

マが流れ、多くの方がツイートして拡散してしまい、人々の不安をあおりました。1890年（明治23年）に日本でコレラという感染症が流行しました。その頃は新しい技術として電話が東京と横浜の間で結ばれ、電話というものが始めて日本に現れたときでした。すると、コレラが電話線を通じて広がるというデマが流れたのです。電話の加入者は電話が鳴ると恐怖におののいたそうです。それまで無かった新しい技術が生まれ仕組みがよくわからないものがあると、それと不安が結びついてデマやフェイクが生まれやすくなるのです。今も、コロナワクチンに関して様々なデマや間違った情報、本当かどうかわからない情報があります。ワクチンにも新しい技術が取り入れられていますし、科学技術の進歩でよく仕組みのわからないものも身の回りにはたくさんあります。昔から人々の不安と結びついたデマやフェイクは後を絶ちません。不安があると冷静に情報の真偽を確かめずに信じてしまいやすいようです。また、自分だけが知っている情報であまり知られていない情報だとすると、人は優越感を持つことができます。怪しげな情報なのに「秘密の情報だけど。」とか「これはまだあまり知られていないけど。」とか「これは政府が隠している情報なんだけど。」なんて言われると冷静に考えればありえない話でも信じてしまい、さらにあまり知られていない情報を自分が知っているという優越感を持ってしまい、自分が間違った情報を信じているなんて考えられなくなることもあるようです。そのような場合、厄介なことに、他人にその情報のことを否定されたり指摘されたりすると、かえってその誤った情報を確信してしまう（バックファイア効果といいます）こともあるそうです。明らかに間違った情報を誰かが信じていても、頭ごなしに否定しないことが大切なようです。

そもそも皆さんには何が正しい情報なのかを見極める力をつけてほしいです。そのためには、いろいろなことを知っていること、論理的に考えられることが大切です。そのためには、できるだけたくさん本をぜひこの夏休みを利用して読んでください。過去の出来事からデマやフェイクの起こった事例を知識として知ることができるかもしれない。科学技術の理屈がわかれば、デマやフェイクに惑わされることがないかもしれない。論理的にしっかり考えられれば、到底あり得ないような情報に踊らされることも無いかもしれません。皆さん、ぜひ正確な知識とそれを得る方法、考える力を身につけてください。まずは、活字の本を読んでください。

最後に、今あるコロナワクチンに関わるデマ、フェイクや誤った情報などです。

「ワクチン研究に使われたネズミはすべて2年以内に死んだ。」元々ネズミは2年から4年くらいが寿命です。ワクチン打ったらネズミが2年以内に死ぬなどと聞く

と怖いようですが、ワクチンに関係なくほとんど2年以内に死ぬそうです。すると今度は「ネコが2年以内に死んだ。」というものもあるそうです。このように、変化系というか発展系というか、間違っただけの情報の変化したものも次々生まれるそうです。

次に「ワクチンを打つと、打った腕に磁石がくっつく。」 実は私はワクチン接種しましたが、磁石はくっつきませんでした。ワクチンにそんな成分は入っていません。

3つめは「ワクチンにはマイクロチップが埋め込まれていて、接種した人は5Gネットワークで監視される。」 先ほどお話しした新しい技術と結びついた誤った情報のパターンですね。5Gってなんだかよくわかりませんよね。それと、ワクチンというものとコロナの不安でできあがったフェイク情報でしょうね。もちろんマイクロチップは含まれていませんし、注射針を通過できるような小さなものもまだ無いようです。

4つめは「ワクチンを打つと不妊になる。」現時点で胎児や胎盤に毒性があるとかワクチン接種を受けた人が不妊になるといった報告はありません。同じように「流産する。」といった情報もあるようですが、アメリカのCDCのグループの研究ではワクチン接種を受けた3万5000人余りの妊婦について流産や死産になった割合や生まれた赤ちゃんが早産や低体重だった割合は、新型コロナウイルス感染が拡大する前と変わらなかったそうです。

最後に「ワクチンを打つことは100%問題ない。」 これも間違っただけの情報です。一定の割合で副反応は起きます。まだよくわかっていないこともあります。絶対大丈夫だとは言えません。

若い皆さんがこれからコロナワクチン接種を受けるかどうか判断するときが来るかと思います。そのときは、必ず正しい情報を元に判断しましょう。ワクチンを打つにしても、打たないにしても正しい情報で判断してください。情報は更新されます。新しい情報をゲットしてください。信頼できる発信元かどうかは確かめてください。信頼できる発信元とは政府であったり、公的な研究機関であったり、大手報道機関などです。

話を戻しますが、夏休みにいろいろな本を読んでしっかり勉強して、知識を広げ、考える力をつけてください。

2学期にはコロナが少しでも収まって、皆さんが元気に登校して学校の活動ができることを願っています。以上で今日の話が終わります。